

科目	基礎看護学		対象年次・時期	1・2年次	
担当講師名	教員				
科目設定理由	<p>専門分野Ⅰ（基礎看護学）は、看護学概論と援助法Ⅰ～Ⅴで構成している。専門分野Ⅱや統合分野の土台となる看護の概念と役割・機能、看護実践の基礎となる看護技術および看護を実践するための方法について学習する。</p> <p>看護学概論は、看護の対象である人間を理解し、看護はどのような役割を果たすのかを学ぶ。また、倫理的判断をするための基礎的能力を養えるように「看護倫理」を学習内容に入れ専門職としての倫理観を培い、看護実践の基盤となるようにしている。基礎看護学援助法Ⅰは対象の理解と看護を実践する上で必要な基本技術を学ぶ。コミュニケーションでは、対象の発するメッセージや感情の意味を理解し、信頼関係を築くための技術を学ぶ。観察では、バイタルサイン測定 of 技術を習得し、記録・報告とともに観察したことをアセスメントできるよう知識と関連させて学習する。演習での体験を通して、情報を判断することの必要性を学び、実習につなげていく。すべての看護の基礎となる安全・感染予防の技術も学んでいく。基礎看護学援助法Ⅱは、対象の生活を整えるために必要な援助技術を学ぶ。対象の思いや生活に合わせた援助の方法を考えて実践し、リフレクションを通して更に対象に合った援助方法を考えていく。解剖生理学で学んだ知識をもとに、安全・安楽・自立に向けた援助の技術を習得する。基礎看護学援助法Ⅲでは、診療の補助技術を学ぶ。対象の安全を第一に考え、基礎的な知識を用いて根拠ある技術を習得する。基礎看護学援助法Ⅳは、対象に起きる症状を緩和するための看護を学ぶ。基礎看護学援助法Ⅴでは、看護理論を理解し、看護実践に必要な看護過程・臨床判断をシミュレーションを通して学んでいく。</p> <p>実習は、基礎看護学実習Ⅰ-1)、Ⅰ-2)、Ⅱに分かれている。基礎看護学実習Ⅰ-1)は看護師と患者の関わりを見学し、患者の表情や言動から患者が何を思い、何を望んで療養生活を送っているのかを考え、看護師の役割を考える。Ⅰ-2)では、初めて患者を受け持ち、入院中の患者が疾患による症状や治療、環境の変化により、どのような生活上の不自由さを感じているか知り、生活を整えるために必要な看護を考え安全、安楽、自立に向けた看護を実施する。基礎看護学実習Ⅱでは、患者の願いを捉え、願いに向けて刻々と変化する患者の状態を知識をもとに捉え、判断して看護を実践する過程を学ぶ。</p>				
科目 構 成	科目名	基礎看護学概論	基礎看護学援助法Ⅰ		
	単位時間	2単位 60時間			
	単元時間	1単位 30時間	26時間	34時間	
	学習範囲	1. 看護の対象	1. 観察の技術	3. 記録・報告	
		2. 看護の役割と機能	2. コミュニケーション技術	4. 学習支援	
		3. 看護の変遷		5. 安全を守る技術	
		4. 看護倫理			
	科目名	基礎看護学援助法Ⅱ			
	単位時間	3単位 90時間			
	単元時間	30時間	30時間	30時間	
	学習範囲	1. 環境を整える援助	3. 清潔・衣服の援助	4. 食事の援助	
		2. 活動・休息・安楽の援助		5. 排泄の援助	
	科目名	基礎看護学援助法Ⅲ		基礎看護学援助法Ⅳ	
	単位時間	2単位 50時間		1単位 15時間	
	単元時間	20時間	30時間		
	学習範囲	1. 呼吸・循環を整える援助	3. 診察・検査時の援助	1. 症状別看護（臨床判断の基礎）	
2. 創傷管理の技術		4. 与薬時の援助			
科目名	基礎看護学援助法Ⅴ				
単位時間	2単位 60時間				
単元時間	26時間	34時間			
学習範囲	1. 看護過程展開の技術	3. 臨床判断の過程			
	2. 看護理論				

		基礎看護学実習(3単位 135時間)	
		基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅱ
		1単位 45時間	2単位 90時間
科目構成	学習範囲	1. 患者の日常生活を整える援助を行うために必要な情報の視点を 知る 2. 患者の日常生活を整える視点・要素を知る 3. 患者とのかかわりから患者の思いを捉える 4. 患者の日常生活を整えるための援助を安全・安楽・自立の視 点をもって行う 5. 患者の思いに添い、患者の状態に合わせた援助を行う意義を 理解する	1. 患者の願いを捉えるために必要な情報の視点を 知る 2. 刻々と変化する患者の状況を判断し、必要な看護を行うための情報の視 点を知る 3. 患者とのコミュニケーションや五感を使った観察から看護を行うために必要な情 報を捉える 4. 刻々と変化する患者に合った援助を安全・安楽・自立の視点で行う 5. 刻々と変化する患者の状況や必要な援助を判断する過程を理解する 6. 患者の願いを捉え、願いに向けた看護を行う意義を理解する
	使用テキスト 文献	系統看護 基礎看護学1「看護学概論」(医学書院) 系統看護 基礎看護学2「基礎看護技術Ⅰ」・基礎看護学3「基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) 「看護がみえるvol.1基礎看護技術」「看護がみえるvol.2臨床看護技術」(メディックメディア) 「臨床看護の本質」(現代社)「ナイチンゲール看護論入門」(現代社) 「看護の基本となるもの」(日本看護協会)「看護覚え書き」(現代社)	
学習を支える 情報	基礎看護学は全ての看護学の土台となる知識、技術、態度を身につけていく科目です。学内演習では体験を通して感じたことや考えたことをもとにその患者に合った援助を考えていきます。患者に合った援助を行うためには患者の状態を瞬時に察知する観察する力を備えることと援助の根拠を理解することが大切です。感じ、考えることと同時にテキストを使って知識を得られるように学習していきましょう。また、グループワークやリフレクションを通して自分の意見を述べるとともに他者の意見を聞き、自己の考えを広げたり深めたりしていきましょう。看護の技術習得のためには繰り返し練習することが必要です。リフレクションをして課題を明確にし確実な技術を身につけていきましょう。基礎看護学の学習を通して看護師としての責任や振る舞いも身につけていきます。常に、相手にとってどうかを考え、日ごろから自分の生活を整えていきましょう。また、基礎看護学実習1～2)に行く前に、日常生活の援助技術を修得します。技術試験には自主的にトレーニングを積んで臨みましょう。		

令和3年度 専門分野 I 科目シラバス「基礎看護学」

科目名	基礎看護学概論		対象年次・時期	1年次・前期	
単位・時間	1単位・30時間				
担当講師名	教員				
科目目標	看護概念の理解を基盤とし、対象である人間と看護の役割・機能について理解できる。				
講義内容 講義担当者	次	主題	内容	担当者	学習方法
	1 2 3	看護の対象	1. 看護の対象としての人間 2. 人間の基本的欲求階層 3. 健康とは何か 4. WHOの定義 5. 8つの健康水準 6. ADLとIADL, QOLの向上	教員	講義
	4 5 6 7 8 9	看護の役割と機能	1. 看護とは 2. 根拠に基づいた看護 3. 看護を実践する過程 4. ヴァージニア・ヘンダーソン「基本的看護の構成要素」		講義 見学
	10 11 12	看護の変遷	1. 職業としての看護の歴史 2. 国民の全体像(社会・経済状況や疾病の変化と健康、関連行動) 3. 社会の変化に伴う看護の果たすべき役割 4. 看護の場の広がり 5. 看護の新たな展開・専門分化 6. 看護職種の教育と課題		講義
	13 14	看護倫理	1. 職業倫理と看護倫理 2. 看護倫理の重要性 3. 患者の権利意識 4. 看護倫理綱領について(倫理的ジレンマを含む)		講義
	15	終講試験			評価
テキスト・参考文献等	系統看護学 看護学概論(医学書院)、看護覚え書 看護の基本となるもの(日本看護協会)				
使用教材	パソコン、プロジェクター				
履修上のアドバイス	この科目は看護の基本となる概念について理解ができるよう学習します。看護の対象を考え、看護とは何か、看護師はどのような職業かを学習します。また看護倫理とは何か、なぜ倫理を学ぶ必要があるのか学習します。				
成績評価	評価方法		評価割合		
	筆記試験		10		
関連科目	倫理学、基礎看護学				

令和3年度 専門分野 I 科目シラバス「基礎看護学」

科目名	基礎看護学援助法 I		対象年次・時期	1年次・前期	
単位・時間	2単位・60時間				
単元名	観察の技術 コミュニケーション技術				
担当講師名	教員				
科目目標	看護を実践する上で基本となる、観察・コミュニケーション技術を習得し、対象を把握する意義を理解できる。				
講義内容 講義担当者	次	単元	内 容	担当者	学習方法
	1 2 3 4 5 6	1. 観察の技術	1. ヘルスアセスメントの基礎知識 2. フィジカルアセスメントに必要な技術 3. 身体計測 4. バイタルサインの観察技術とアセスメント 1) 血圧測定(触診法・聴診法) 2) 体温・脈拍・呼吸測定 3) バイタルサインの変動因子の影響 4) バイタルサインのアセスメント 5. 呼吸器系・腹部のフィジカルアセスメント	教員	講義 演習
	7 8		6. 看護者としての観察の責任 1) 観察時の倫理的配慮 2) 観察内容に対する責任		
	9	2. コミュニケーション技術	1. コミュニケーションの基礎的知識の理解 1) コミュニケーションの構成要素と成立過程 2) 相手に寄り添うとは	教員	GW 講義
	10		2. コミュニケーションを円滑にする方法		GW 講義
	11		3. 看護とコミュニケーション 4. コミュニケーションに障害がある人への対応		講義
	12		5. コミュニケーションの意義と看護師の役割		GW 講義
	13	終講試験(筆記試験(45分)・技術試験)			評価
	テキスト・参考文献等	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I (医学書院) 「看護がみえるvol.1基礎看護技術」「看護がみえるvol.2臨床看護技術」(メディックメディア)			
	履修上のアドバイス	1. この科目では看護の基本となる技術を学びます。特に対象を理解するための方法を学んでいきます。 2. 観察の技術では対象の身体に起きていることを知るための技術を学びます。患者の生命にかかわる技術なので、正確で確実な技術を習得しましょう。 3. コミュニケーションは対象を理解するために必要な技術です。体験を通して患者の思いを感じ、看護を行う上で必要な技術としてのコミュニケーションを学びましょう。 4. 演習の中で患者体験を通して学ぶ方法を多く取り入れています。自己学習とリフレクションで学びを深め、主体的に技術練習に取り組み、正確な技術を身につけましょう。 6. 患者体験することで安全で正確なバイタルサイン測定 of 技術を習得をしましょう。			
	成績評価	単元		評価方法	評価割合
		1. 観察の技術	筆記試験		4
			技術試験		3
2. コミュニケーション技術		筆記試験		3	
* 筆記試験・技術試験の得点がそれぞれが6割以上であることで単位修得とします。					
主な関連科目	人間関係論、心理学、解剖生理学 I・II、基礎看護学概論、成人看護学援助法 II				

令和3年度 専門分野 I 科目シラバス「基礎看護学」

科目名	基礎看護学援助法 I			対象年次・時期	1年次・前～後期
単位・時間	2単位・60時間				
単元名	記録・報告 学習支援 安全を守る技術				
担当講師名	教員				
科目目標	1. 基本的な記録・報告、指導を学習し、看護師が行う記録・報告、学習支援の意義を理解できる。 2. 基本的な感染予防の技術を習得し、対象の安全を守る意義と看護の役割を理解できる。				
講義内容 講義担当者	次	単元	内 容	担当者	学習方法
	1	1. 記録・報告	1. 看護記録の意義・目的の理解	教員	講義
	2		2. 看護記録・報告の責任の理解		講義
	3		1) 看護記録の管理・記録と法的規定 2) 記録の管理 3) 記録の開示 4) 医療事故と記録・報告		
	4		3. 記録の種類、仕方の理解		講義
	5	2. 学習支援	1. 学習に関わる諸理論	教員	講義 演習
	6		2. 健康に生きることを支える学習支援		
	7		3. 対象に合わせた支援方法と媒体の工夫		
	8		4. 個別指導・集団指導の特性と適用 5. 学習支援の実際(演習)		
	9	3. 安全を守る技術	1. 感染の定義と成立過程・感染経路の理解	教員	講義
	10		2. 感染予防のための看護技術の実際の理解		講義 演習
	11		1) 感染予防の原則		
	12		2) スタンダードプリコーション		
	13		3) 感染経路別対策		
	14		4) 感染源対策		
	15		5) 手洗いの方法		
	16	6) 無菌操作 7) 防護用具			
	17	終講試験		評価	
系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I II (医学書院) 「看護がみえるvol.1 基礎看護技術」「看護がみえるvol.2 臨床看護技術」(メディックメディア)					
プロジェクター・PC・書画カメラ・ホワイトボード					
1. この科目は看護の基本となる技術を学びます。 2. 学習支援では、基本的な指導の方法を体験を通して学びます。理論を知り、対象に合わせた指導を行うための基礎を学びましょう。 3. 安全を守る技術では感染予防の原則と方法を学びます。感染予防の技術はこれから学ぶすべての看護に関連してくるため、根拠を学び確実な技術を身につけましょう。 4. 記録・報告はチームの中で患者の情報交換をする上で大切な方法です。記録・報告の原則を学び、実習で学んだことを活用できるよう学習を進めましょう。 5. この科目は演習での体験を通して学びを深めていきます。対象への影響を意識し、緊張感をもって学習しましょう。					
成績評価	単元		評価方法	評価割合	
	1. 記録・報告		筆記試験	2	
	2. 学習支援		筆記試験	2	
	3. 安全を守る技術		筆記試験	6	
* 各単元の得点の合計点が6割以上であることで単位修得とします。					
主な 関連科目	人間関係論、解剖生理学 I・II、微生物学、基礎看護学概論、成人看護学概論、成人看護学援助法 I				

令和3年度 専門分野 I 科目シラバス「基礎看護学」

科目名	基礎看護学援助法 II		対象年次・時期	1年次・前期			
単位・時間	3単位・90時間						
単元名	環境 活動・休息・安楽						
担当講師名	教員						
科目目標	1. 安全で快適な生活環境を整えるための援助方法を習得し、環境を整える意義と看護の役割が理解できる。 2. 安全・安楽・自立に向けた活動・休息・安楽の援助方法を習得し、活動・休息・安楽を調整する意義と看護の役割を理解できる。						
講義内容 講義担当者	次	単元	内 容	担当者	学習方法		
	1	1. 環境を整える援助	1. 環境とは 2. 療養生活の環境	教員	講義		
	2		3. 病室の環境と調整		講義 演習		
	3				4. 病床環境を整える援助 1) ベッドメイキング 2) 病床の整備のポイント 3) 臥床患者のシーツ交換	演習	
	4					5. 一日の生活と環境 6. 環境調整の意義・看護の役割	評価
	5						
	6						
	7	2. 活動・休息・安楽の援助	1. 姿勢と体位・ボディメカニクス	教員	講義 演習		
	8		2. 人間の自然な動き 3. 体位変換 4. ポジショニング				
	9					5. 移動・移送 1) 車いす 2) ストレッチャー 3) 歩行の援助	
	10						
	11		6. 安静の弊害 7. 睡眠・休息の援助			講義・GW	
	12					講義・GW	
	13		8. 活動・休息の意義・看護の役割			評価	
	14						
15	終講試験(筆記試験(45分)・技術評価)						
テキスト・参考文献等	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II (医学書院) 「看護がみえるvol.1基礎看護技術」「看護がみえるvol.2臨床看護技術」(メディックメディア)						
使用教材	演習は看護実習室で行う。						
履修上のアドバイス	1. 基礎看護学実習 I - 1) の体験から入院生活を送る患者にとって安全で快適な環境を考えましょう。 2. 人間の自然な動きをもとに、その患者にとって安全・安楽、自立に向けた活動や休息の援助方法を考えましょう。 3. 患者役の体験を通して感じたことを活かし、患者への配慮も学んでいきましょう。						
成績評価	単元		評価方法	評価割合			
	1. 環境を整える援助	筆記試験		3			
		技術試験		3			
	2. 活動・休息・安楽の援助	筆記試験		4			
* 筆記試験・技術試験の得点がそれぞれが6割以上であることで単位修得とします。							
関連科目	人間関係論、健康と運動、解剖生理学 I・II、人間工学、基礎看護学概論 成人看護学援助法、老年看護学援助法						

令和3年度 専門分野 I 科目シラバス「基礎看護学」

科目名	基礎看護学援助法 II		対象年次・時期	1年次・前～後期	
単位・時間	3単位・90時間				
単元名	清潔				
担当講師名	教員				
科目目標	安全で心地よく清潔を保つために必要な援助方法を習得し、清潔・衣生活の意義と看護の役割を理解できる。				
講義内容 講義担当者	次	単元	内 容	担当者	学習方法
	1	清潔・衣服の援助	1. 清潔とは	教員	講義・GW
	2		2. 清拭・寝衣交換 患者にとって安全で心地よい清拭と寝衣交換		講義 演習
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
8	3. 口腔ケア 4. 部分浴(足浴・陰部洗浄・手浴) 5. 洗髪	演習 GW			
9					
10					
11					
12	6. ADLに合わせた清潔援助	講義・GW			
13					
14	7. 清潔の意義・看護師の役割	講義・GW			
15	終講試験(筆記試験(45分)・技術評価)		評価		
テキスト・参考文献等	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II (医学書院) 「看護がみえるvol.1基礎看護技術」「看護がみえるvol.2臨床看護技術」(メディックメディア)				
使用教材	演習は看護実習室で行う。ホワイトボード				
履修上の アドバイス	1. 清拭・寝衣交換はパフォーマンス課題を使って学習します。自分で必要な学習内容を見出し、体験の中から患者にとってより良い援助方法を考えていきましょう。 2. 演習での体験からその患者にとって安全で快適な援助方法を考えましょう。 3. 肌の露出の機会が多いため、羞恥心や保温への配慮は欠かせません。患者体験から得た思いを援助に活かしましょう。				
成績評価	単元	評価方法	評価割合		
	清潔・衣生活の援助	筆記試験	5		
		技術試験	5		
* 筆記試験・技術試験の得点がそれぞれが6割以上であることで単位修得とします。					
関連科目	人間関係論、解剖生理学 I・II、基礎看護学概論 老年看護学援助法				

令和3年度 専門分野 I 科目シラバス「基礎看護学」

科目名	基礎看護学援助法 II		対象年次・時期	1年次・前～後期	
単位・時間	3単位・90時間				
単元名	食事・排泄				
担当講師名	教員				
科目目標	1. 安全で楽しく食事をするための援助方法を習得し、食事の意義と看護の役割を理解できる。 2. 安全・安楽な排泄の援助方法を習得し、排泄の意義と看護の役割を理解できる。				
講義内容 講義担当者	次	単元	内 容	担当者	学習方法
	1	1. 食事の援助	1. 栄養状態のアセスメント 2. 栄養と食事に関する基礎知識	教員	講義 GW
	2 3		3. 食事介助の実践		講義 演習
	4 5		4. 経口的食事摂取に障害のある患者への援助 1) 経管栄養法 2) 中心静脈栄養法 5. 食事の意義と看護の役割		講義
	6	2. 排泄の援助	1. 自然な排泄を維持・促進するための援助		講義 GW
	7		2. ADLに合わせた排泄の援助		講義 演習 GW
	8 9 10		3・排尿困難時の援助 1) 排尿困難・尿閉・尿失禁 2) 導尿		講義 演習 GW
	11 12 13		4. 排便困難時の援助 1) 便秘・下痢 2) 洗腸・摘便		講義 演習 GW
	14		5. 排泄の意義と看護の役割		講義 GW
	15	終講試験			講義 評価
テキスト・参考文献等	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II (医学書院) 「看護がみえるvol.1基礎看護技術」「看護がみえるvol.2臨床看護技術」(メディックメディア)				
履修上のアドバイス	1. 自己の食生活を振り返り、安全で楽しい食事の援助を考えていきましょう。 2. 排泄の援助はプライバシーに配慮することがとても大切です。患者体験を通して患者の気持ちを考えプライバシーに配慮した援助を考えましょう。				
成績評価	単元		評価方法		評価割合
	1. 食事の援助		筆記試験		3
	2. 排泄の援助		筆記試験		7
* 各単元の得点の合計点が6割以上であることで単位修得とします。					
関連科目	人間関係論、解剖生理学 I・II、基礎看護学概論 成人看護学援助法 老年看護学援助法 在宅看護援助法				

令和3年度 専門分野 I 科目シラバス「基礎看護学」

科目名	基礎看護学援助法 Ⅲ			対象年次・時期	1年次・後期	
単位・時間	2単位・50時間					
単元名	呼吸・循環を整える援助 創傷管理の技術					
担当講師名	教員					
科目目標	1. 呼吸・循環を整えるための知識と技術を習得し、看護を理解できる。 2. 創傷管理についての知識と技術を学ぶ。					
講義内容 講義担当者	次	単元	内 容	担当者	学習方法	
	1 2 3	1. 呼吸・循環を整える援助 1) 吸引・吸入	1. 呼吸のメカニズム 2. 排痰ケア 3. 吸引・吸入の目的・適応・種類と方法	教員	講義 演習	
	4 5		4. 吸引・吸入の実際		演習	
	6 7	2) 体温調節の援助	1. 体温管理の援助 1) 発熱時の援助 2) うつ熱時の援助 3) 低体温時の援助	教員	GW・講義	
	8 9	2. 創傷管理の技術	1. 創傷の種類	教員	講義	
			2. 治癒過程と観察		講義	
			3. 創傷処置		演習	
	10	筆記試験(45分)				評価
	テキスト・参考文献等	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 「看護がみえるvol.1基礎看護技術」「看護がみえるvol.2臨床看護技術」(メディックメディア)				
	履修上のアドバイス	1. 人の生命活動を支えるためにも、呼吸・循環を整えることはとても重要な看護です。根拠を持って安全・安楽に実践できるよう技術について学びましょう。 2. 創傷の種類や治癒過程を理解し適切な援助を行えるよう学びましょう。				
	成績評価	単元		評価方法	評価割合	
1. 呼吸・循環を整える援助		筆記試験	7			
2. 創傷管理の技術		筆記試験	3			
* 各単元の得点の合計点が6割以上であることで単位修得とします。						
関連科目	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、薬理学、臨床検査、成人看護学援助法 医療安全					

令和3年度 専門分野 I 科目シラバス「基礎看護学」

科目名	基礎看護学援助法 Ⅲ		対象年次・時期	1年次・後期		
単位・時間	2単位・50時間					
単元名	診察・検査時の援助 与薬時の援助					
担当講師名	教員					
科目目標	1. 安全・安楽な診療の補助技術を習得し、看護の役割を理解できる。 2. 正しく与薬を行うために薬剤の管理方法、剤形別の投与方法の特徴と看護の役割が理解できる。					
講義内容 講義担当者	次	単元	内 容	担当者	学習方法	
	1 2	1. 診察・検査時の援助(採血・採尿・穿刺時の援助)	1. 診察 1) 診察・検査のプロセス 2) 診察・検査における看護の役割 3) 診察の方法	教員	講義	
			2. 検査 1) 検査の種類と看護師の役割 2) 検査の種類と検体の採取方法、検体の取り扱い方(尿・便・喀痰・血液) 3) 看護の役割 4) 検査での事故予防		講義	
			3. 検査時の援助 1) 静脈血採血・穿刺 2) 静脈血採血の実際(演習)		講義 演習	
	6 7 8	2. 与薬時の援助	1. 与薬 1) 薬剤の種類と取り扱い 2) 与薬方法と効果の観察 3) 与薬における看護師の役割	教員	講義 GW	
			2. 注射 1) 注射方法と取り扱い 2) 注射の準備と援助の実際 3) 実施上の看護師の役割 3. 輸血管理 1) 輸血の種類と管理方法 2) 輸血による副作用 3) 輸血における看護師の役割		講義 演習 GW	
	14		与薬の意義と看護師の役割		GW 講義	
	15	終講試験			評価	
	テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 「看護がみえるvol.1 基礎看護技術」「看護がみえるvol.2 臨床看護技術」(メディックメディア)				
	履修上のアドバイス	1. 課題を使い、学習します。自分で必要な学習内容を考え、意見交換し、患者にとってよりよい援助法を考えます。 2. 演習での患者体験から安全で安楽な援助方法を考え、学んでいきましょう。				
	成績評価	単元		評価方法	評価割合	
		1. 診察・検査時の援助		筆記試験	4	
		2. 与薬時の援助		筆記試験	6	
	* 各単元の得点の合計点が6割以上であることで単位修得とします。					
	関連科目	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、薬理学、臨床検査、基礎看護学概論 医療安全				

令和3年度 専門分野 I 科目シラバス「基礎看護学」

科目名	基礎看護学援助法Ⅳ		対象年次・時期	1年次・後期	
単位・時間	1単位・15時間				
担当講師名	教員				
科目目標	症状を呈する患者に合わせた看護を行うための臨床判断の基礎を学ぶ。				
講義内容 講義担当者	次	主題	内容	担当者	学習方法
	1 2 3 4 5 6 7	臨床判断の基礎	1. 症状を呈する患者の看護 1)呼吸困難のある患者の看護 2)循環障害のある患者の看護 3)痛みのある患者の看護		講義 GW
	8	臨床判断とは	2. 臨床判断の過程		講義 GW
テキスト・参考文献等	系統看護学講座 基礎看護学「4」臨床看護学総論(医学書院)				
履修上のアドバイス	この科目で学ぶ看護は、今後学習する各領域の看護の基礎となる知識です。シミュレーション学習を通して気づく力をつけましょう。				
成績評価	評価方法		評価割合		
	レポート		10		
	* 症状を呈する患者の看護 1)～3)それぞれのレポート点の平均が6割以上であることで単位修得とします。 * レポートの評価はルーブリックにより行います。 * レポートは、評価日の8:50までに提出がない場合は評価対象となりません。				
関連科目	生活科学、基礎看護学概論、成人看護学援助法、解剖生理学、疾病論				

令和3年度 専門分野 I 科目シラバス「基礎看護学」

科目名	基礎看護学援助法 V		対象年次・時期	1年次・後期	
単位・時間	2単位・60時間				
単元名	看護過程展開の技術 看護理論				
担当講師名	教員				
科目目標	科学的思考で看護を行うプロセスを学ぶ。				
講義内容 講義担当者	次	主題	内容	担当者	学習方法
	1	1. 看護過程展開の技術	1. 看護過程とは 1)看護過程に必要な理論と概念 2)問題解決思考 3)クリティカルシンキング	教員	講義 GW
	2		2. 情報収集と情報整理		
	3		3. 情報のアセスメント 4. 情報の統合		
	4				
	5		5. 看護問題の明確化と看護目標 6. 看護計画 7. 評価		
	6				
	7		8. 看護過程の意義		
	8	2. 看護理論	1. 理論とは	教員	GW
	9		2. 広範囲理論・中範囲理論		
	10		パフォーマンス課題 実習で経験した事例について、理論を活用して説明しよう。		
	11				
	12	3. 理論を活用する意義			
	13	終講試験			GW・評価
テキスト・参考文献等	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I (医学書院) ケースを通してやさしく学ぶ看護理論 (日総研)				
使用教材	看護理論:看護理論家のVTR、パソコン・プロジェクター				
履修上のアドバイス	1. 今まで学習してきた知識をフル活用して看護を考えていきましょう。 2. 基礎看護学実習 I -2)で受け持った患者さんの看護を振り返りながら学習を進めます。実習で使用したポートフォリオや学習ノートを使います。				
成績評価	単元		評価方法	評価割合	
	1. 看護過程展開の技術		筆記試験	5	
	2. 看護理論		筆記試験	3	
			パフォーマンス課題	2	
* 筆記試験・パフォーマンス課題の得点がそれぞれが6割以上であることで単位修得とします。 * パフォーマンス課題の評価はルーブリックにより行います。 * パフォーマンス課題の評価日の8:50までに提出がない場合は評価対象となりません。					
関連科目	基礎看護学概論、看護研究、				

令和3年度 専門分野 I 科目シラバス「基礎看護学」

科目名	基礎看護学援助法 V		対象年次・時期	2年次	
単位・時間	2単位・60時間				
単元名	臨床判断の過程				
担当講師名	教員				
科目目標	1. 健康課題をもつ患者の願いを捉える意味を理解できる。 2. 日々変化する患者の状況に合わせた看護を考える意味が理解できる。				
講義内容 講義担当者	次	単元名	内容	担当者	学習方法
	1	臨床判断の過程	1. パフォーマンス課題オリエンテーション 2. ビジョン・ゴールの設定	教員	演習・GW
	2 16		3. 患者の願いを捉える 4. 日々変化する患者の状況に合わせた看護を考える		
	17		まとめ		
テキスト・参考文献等	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I (医学書院) 疾病と看護 症状別看護 薬理学 成人看護学概論				
使用教材	ホワイトボード				
履修上のアドバイス	1. この科目はシミュレーション学習を取り入れ、実際の患者とのかかわりをリアルに体験します。患者の思いや生活の状況、疾患による症状を理解できるよう、実習や学内での体験を想起し、主体的に学びましょう。 2. これまで学習してきたすべての内容をフル活用して患者の全体像を理解しましょう。 3. この科目は基礎看護学実習 II や領域別実習の基礎となる科目です。リフレクションを通して自ら学習課題を発見し解決する力をつけていきましょう。 4. グループワークを多く取り入れます。他者の意見に耳を傾け、自分の考えを深めたり広げたりしていきましょう。				
成績評価	評価方法		評価割合		
	パフォーマンス課題		10		
	* パフォーマンス課題の評価はルーブリックにより行う。 * パフォーマンス課題の評価日の8:50までに提出がない場合は評価対象とならない。				
関連科目	解剖生理学、病理学、薬理学、臨床検査、疾病論、基礎看護学概論、 基礎看護学援助法 I・II・III、成人看護学援助法 I・II・III・IV、看護研究				